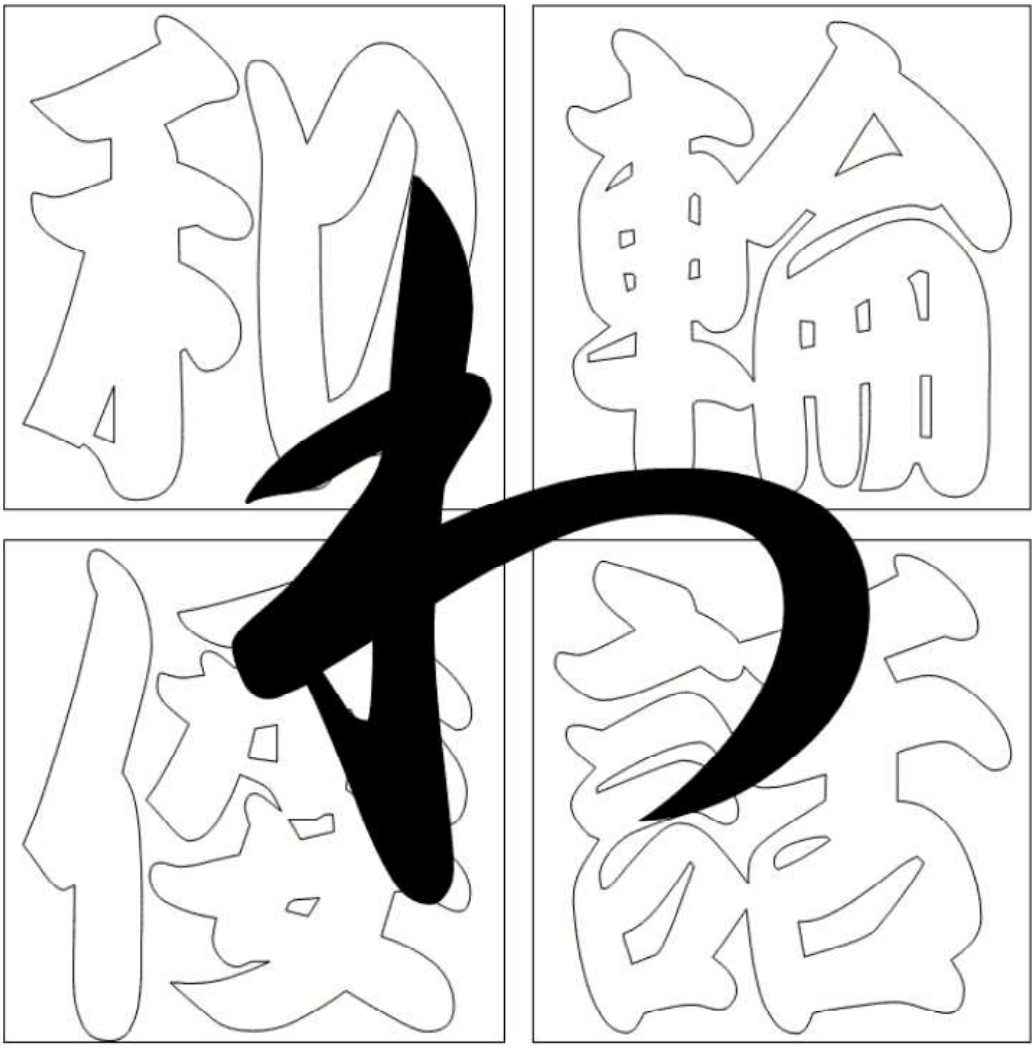
金沢区生涯学習“わ”の会

会　報

第 10 号

（2004 年 8 月）



目　次

委員会からのお知らせ
運営委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
5 周年記念誌編集委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
INDEX 金沢編集委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
ホームページ検討委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
会報編集委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
学習会
学習会の感想（アンケート結果） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
学習会に「黒子」あり　小澤　妙子 ・・・・・・・・・・・・ 6
会員の寄稿
「懐かしの映画を観る会」と私　分科会代表　佐藤　晃 ・・・・・・ 7
亀山天皇と金沢　熊谷　哲 ・・・・・・・・・・・ 8
能見堂地蔵堂縁起　戯考　葛城　峻 ・・・・・・・・・・・ 9
鎌倉俳句寺社めぐり（その４）　北野　清市 ・・・・・・・・・・・ １０
分科会からのお知らせ
2004 年 12 月までの予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３

委員会からのお知らせ

運営委員会からのお知らせと、5 月 15 日の総会で新たに設置が承認されました各委員会について、7 月末までの進捗状況の報告です。

運営委員会　　“わ”の会代表　高橋　好一

（1）学習会

５月に開講した今年度の全７回の学習会も、この７月で第３回を終了し、８月は折り返し点に至りました。学習会ごとのアンケートに対する回答では、「大変良かった」「良かった」との評価を戴いており、私たち運営委員一同ほっと胸を撫で下ろしつつ、１１月の最終回まで、気を抜くことの無いようにと、自戒しております。

７月３日の運営委員会から、来年度の学習会の企画・検討を開始しました。来年度も今年度と同様に５月から１１月までの全７回の学習会を予定していますが、今まで会員各位から寄せられたご意見、ご提案を参考にさせて戴き、ご満足戴ける学習会を計画致します。１０月の第６回学習会では、その計画素案を提示し、１１月の最終学習会には来年度会員継続手続をお願いする予定です。乞うご期待、というところです。

（２）生涯学習交流会

金沢区が主催する生涯学習グループと街の先生登録者による平成１５年度の交流会は、３月６日に能見台地区センターで開催され、多数の区民にご参加を戴きました。

今年度は平成１７年３月 12 日(土)に同所で開催予定です。“わ”の会も交流会実行委員会に加わり、この５月から実行委員会活動を開始し、昨年度の反省を踏まえ、少しでも区民に慣れ親しんで戴く交流会に致したいものと努力しております。進行状況は逐次会報などでご連絡申し上げてまいります。

５周年記念誌編集委員会　　委員長　沓掛　勝利

（１）　事業の承認

創立５周年記念事業の一つである「“わ”の会５年の歩み」の発刊事業は、運営委員会の方針に基づき、５周年記念誌準備委員会を７回開催して作成した「創立５周年記念事業提案書」を５月１５日の総会に諮り、今年１１月の最終学習会で、全会員に配布する方針で承認されました。

（２）　編集委員会

４名で進めてきた準備委員会メンバーに加え、新たに編集委員を総会で募集しました。残念ながら、応募者はなく、下記のメンバーで委員会を発足しました。

委員長：沓掛　勝利
委　員：岡田　満、伊澤　尚、金間　誠一
監修者：高橋　好一、太田　耕蔵
（代表・元代表としてアドバイス願う）

（３）　「会員の声」寄稿募集

当初の寄稿締切日であった７月１０日を７月末日まで延長して、皆様にご協力をお願いしました結果、３５名の方からご寄稿をいただきました。

また、同時に募集した表紙デザインについては、残念ながらご応募はありませんでした。

（４）　その他の進捗状況及び予定

７月に入り、記念誌の１つのパートである分科会の５年の歩みの執筆を各分科会代表に依頼し、７月末にご寄稿をいただきました。また、記念誌全体の構成が具体的に見えてきた８月中旬から、行政機関・歴代講師や見学先関係者に対し、８月末目標に寄稿の依頼をしております。

８月からは原稿内容や体裁の調整を開始し、掲載用写真の収集と共に編集作業を進め、１０月末の印刷、１１月の最終学習会での配布に向けて作業中です。

ＩＮＤＥＸ金沢編集委員会　　委員長　岡本　茂男

（１）　事業の承認

もう１つの創立５周年記念事業である「ＩＮＤＥＸ金沢」発刊事業は、

①　会員全員で金沢の歴史に絡む大きなテ

ーマに取り組むことで、我が街金沢への共通認識と学習の喜び及び達成感を共有する。

② また、これにより歴史研究の一端を担う。

を目的として、総会に提案し、承認されました。

（２）事業の進捗状況

完成までには、多くの会員の知恵を結集して行きたいと思いますが、現在のところ提案時の６名で下記の編集委員会を構成し、毎月１回のペースで作業を進めております。

委員長：岡本　茂男

委　員：小俣　悦男、熊谷　哲、小岩克介
佐藤　栄一、納富　優

具体的には、項目の抽出が第一であり、各委員が金沢に関する既刊の「かねさは物語」「図説金沢」「富岡案内」等々多くの参考文献を手分けして調べ、関係項目の拾い出しを行っております。拾い出しが重複するのは避けられず、毎回拾い出した項目を持ち寄り、読み合わせと同時に削除の作業をいたしております。

（３）今後のスケジュール

項目の抽出は平成１６年９月までに終了し、具体案を同年１１月に会員の皆様に提示します。

その後、平成１６年度から平成１８年度にかけて各項目の説明文の作成を行い、編集、校正、印刷を平成１８年度内に行う予定です。

会員の皆様への完成冊子の配布は平成１９年５月開催の総会時を予定いたしております。

（４）会員の皆様へのお願い

上記のように、現在、委員６名で作業をしておりますが、より使いやすいもの目指しておりますので、会員の皆様の中で編集委員会に参加のお気持ちのある方を募集しております。是非お申し出いただきたいと思います。

また、項目の具体案提示の１１月以降、各項目の説明文作成を全員参加でいかなる方法で行うか、よい方策のご提案をお願いいたします。

ホームページ検討委員会　　委員長　金間　誠一

（１） 委員募集の結果と委員会の発足

８名の応募があり、6 月 17 日に第１回検討委員会を開催しました。その結果、

委員長：金間　誠一

委　員：永井　重信（記録）、神谷　順子（購入）、
片岡　一江（購入）、小俣　悦男（会計）、
岡田　　満、高橋　好一、小澤　妙子

の体制で検討を進めることになりました。（　）内は委員会での担当業務を示します。

（２） 検討委員会の進め方

ほとんどの委員が“わ”の会ホームページ（ＨＰ）作成とともに自らのＨＰ立上げや改善を目指しています。そこで、“わ”の会ＨＰ検討と関連パソコン技術習得を平行に進め、最終回の第 10 回検討委員会（10 月 14 日）において、“わ”の会ＨＰ立上げとパソコン技術習得の同時完了が出来るようなスケジュールで取組むことにしました。

（３） 進捗状況

第１回と第２回委員会で、“わ”の会ＨＰの目的、会員の皆様に便利なＨＰとは、第３回委員会で、具体的にどのような情報をどのような順番で配置するのが最適かの机上検討を行いました。同時にＨＰ作成・運営に関するパソコン基礎技術の勉強を進めました。第４回委員会ではそれらの成果を組合せて“わ”の会ＨＰのトップページと分科会などいくつかのサブ・ページを試作し、パソコン画面で見栄えや操作性、掲載情報の過不足などの検討と勉強した技術の実務への適用を行いました。

（４） 今後の予定

各委員で残りの各サブ・ページを分担し、全体を仕上げると同時に技術の習得に磨きをかけて行きます。11 月 13 日開催の本年度最終学習会で会員の皆様に完成した“わ”の会ＨＰをご披露します。ご期待下さい。

その時点で当委員会の任務は終了し、解散いたします。これを引継ぎ、継続的にＨＰを運営して行くためのホームページ委員会（仮称）を新たに設置します。改めてメンバーを募りますので、関心をお持ちの方の参加をお願い致します。

会報編集委員会　　委員長　小岩　克介

（１）委員の募集と結果

これまで広報担当の運営委員が中心で会報を編集・発行してきました。名実ともに会員の、会員による、会員のための会報にすべく、平成 16 年５月 15 日の総会で、会則を改訂して新たに会報編集委員会を設置し、会報編集委員の大募集をすることを皆様に諮り、承認を得ました。

しかしながら、皆様からの応募が無く、６月の第 2 回学習会でも高橋代表からたってのお願いをしましたが、これにも応募がありませんでした。

（２）委員の指名と会報編集委員会の発足

そこで、会則に従って、各分科会から１名を指名させていただき、分科会と会報編集を繋ぐ役割を任じていただくことになりました。

新体制の会報編集委員会のメンバーは次の通りです。

委員長：小岩　克介（運営委員）
委　員：沓掛　勝利（運営委員、寺社を巡る会）
　　岡田　　満（古文書を読む会）
　　神谷　順子（ふれあいの道歩こう会）
　　武田　偉彦（懐かしの映画を観る会）
　　金間　誠一（運営委員）

（３）今後の進め方

編集委員会は月１回、各会報の発行当り３回開催。能見台地区センターにて２時間程度の予定です。会報 11 号からは新体制のもとで各種情報の交換と 108 名の会員を擁する会報として、そのあり方を追求し、実践して行きたいと考えます。

学　習　会

学習会の感想（アンケート結果）

第１回学習会「川合玉堂と金沢」

講師：美術エッセイスト　宮野　力哉 氏　　出席者　７９名（７３％）

・「心は常に富岡にあった」という玉堂と金沢の関係が理解できた。

・内容が深く、玉堂を尊敬する気持ちを抑えながらの講義は迫力がありました。

・絵画を鑑賞する時間もあり、玉堂の画風がよく理解できた。

・押し付けるような雰囲気を感じさせない講義で、タイミングの取り方が素晴らしい。

・二松庵の存在や、玉堂のことは名前しか知らなかったので、いい勉強になった。

短時間での紹介は大変だったと思う。

第２回学習会「横浜開港と金沢」

講師：金沢区の文学と歴史愛好会　会長　楠山　永雄 氏　　出席者　８３名（７７％）

・スライドが具体的で解かり易く、よく理解できた。

・金沢沖（小柴沖）がペリー停泊基地であったこと、金沢の地がこれほど開国に関わっていたこと、金沢の人々が黒船を間近に見たこと、さらに米国人との交流などに感動を覚えました。

・ペリーが５１歳だったとは意外。

・ペリー来航の要因や土地の人達の動向、印度航路を進み、更に北上して沖縄の那覇港で 12 艘を調達した話などが興味深かった。

・横浜開港の経緯が市歌の意味と併せてよく理解できました。

第３回学習会「神奈川県の地震活動と金沢の地震災害」

講師：神奈川県温泉地学研究所専門研究員　伊東　博 氏　出席者　６８名（６３％）

・「文化的テーマ」とは一味違っており、テーマの選定が大変良い。年１回程度継続した企画にしてはどうか。

・神奈川県西部地震の発生が 73 年周期で予測されているとのことで、改めて危機感をもった。

・スライドと同じ資料を頂き、後日復習可能。しかし、詳細を読みにくいページがあり、改善を要する。

・東海･県西部地震予測についてのマスコミ報道の確認ができた。

・横浜市や横須賀市主催の地震講演を以前聴いたが、今回の講演が最も解り易かった。

・プレートによる地震と活断層による地震の相違や地震の発生要因が理解できた。

・マグニチュード（M）が１増加するとエネルギーが３２倍になること、小地震が多数発生しても大地震の発生抑制にはならないことが大変印象に残った。

・神奈川東部地区の地震活動の予測を知りたい。

・地震の予知には限界があるものの、最新の地震予知、予測システムをもっと詳しく知りたい。

学習会に「黒子」あり

運営委員　小澤　妙子

舞台の後方にそっと控え、自分は真っ黒でその存在すら気づかれずとも、主役を金にもプラチナにも輝かせる影の立役者――あの**黒子**が実は“わ”の会にもいるのです。毎回の学習会の際に、演壇正面横に掲げられている垂れ幕（次ページに本年度のこれまでの全３回分を示す）――演題と講演者名が書かれた力強い筆を皆様も無意識のうちにご覧になられていることと思います。たかが一枚の紙ですが、されどこの一枚の存在で会場の雰囲気が大きく変わります。

これは釜利谷西在住の女性がボランティアで書いて下さっているものです。書を趣味とし、か

なりの大作も手がけられ、書道展で受賞もしておられるとか…そんなこととはつゆ知らず、『自分の勉強にもなりますから』とおっしゃる彼女の言葉に甘え、毎回お願いしています。

この紙面にて、影で支えてくださっている我らの**黒子**の存在を皆様にご紹介し、次回学習会で垂れ幕を目になさった時は、あの影に**見目麗しき美女**がそっと控えていることを想像しながらご覧いただけたらと思います。

このように“わ”の会は皆様の知恵やお力で大きく育っていくのです。まさに『“わ”の会の 100 人寄れば文殊の知恵』です。現状の運営委員だけではまだまだ知恵も力も不足しています。一人でも多くの方々と手をつなぎ、さらに大きな輪を広げていきたいと思います。

会員の寄稿

「懐かしの映画を観る会」と私
～分科会の創設にたずさわって～

分科会代表　佐藤　　晃

ＮＨＫの衛星放送を中心として内外の名画のビデオ録画を始めて２０年余が経ち、採録したビデオは７００本を超えてしまいました。退職してからゆっくりとこれらの映画を観ることを楽しみにしておりましたが、“わ”の会で新しい分科会を作るという話を聞き、高橋代表に相談したところ、これらの映画を同好の士と共に鑑賞するのも良いのではないかということで、「懐かしの映画を観る会」が発足しました。５月１５日の総会での会員募集の結果、会員数は当初の目標数を超え、７月末には２１名に達しました。

毎月第２、第４月曜日の午後、金沢地区センターで鑑賞会を開催しておりますが、毎回１７～１８名の会員が出席しており、盛況です。これまでに「ローマの休日」、「エデンの東」、「ライムライト」、「生きる」、「望郷」、「波止場」を鑑賞しまし

たが、ＥＮＤマークが出ると一斉に拍手が起こります。

思い返してみますと、戦後、外国映画が輸入され、戦災で焼け残った日比谷映画劇場に何時間も並んで「ローマの休日」や「風と共に去りぬ」を観て、オードリー・ヘップバーンやヴィヴィアン・リーに胸をときめかせたものでした。デートには映画はつきもので、観終わった後、喫茶店で一杯のコーヒーで何時間も話し込むというのが、当時のデートコースの定番でした。歳も古希を超えました。日々の感動も薄くなり、ただ惰性のまま生きているという毎日が続いていますが、今、過去の名作を観て、リアルタイムで観た当時を思い出すことによって新しい発見があるのではないかという気持ちが、この分科会を立ち上げた契機の一つです。

先日、鑑賞会で黒澤明監督の「生きる」を観ました。昭和２７年の映画ですが、志村喬扮する市民課長が胃ガンで余命いくばくもないことを知り、残された人生を児童公園の建設に尽くす。そして粉雪が降る中で「命短し恋せよ乙女」を歌いながら死んでいく。５０年前にこの映画を観て心がゆすぶられて、それが私の公務員志望の一因となったことを改めて思い出しました。その日の鑑賞会では、会員１８名が出席し、このときも「終」のマークで一斉に拍手が起こりました。「生きる」ことについて、それぞれがそれぞれの思い出をこの映画の中に見出したものと思っています。

前述のように、現在の会員は２１名です。会員のアンケートで希望の多かった映画の中から洋画２、邦画１の割合で鑑賞することにしています。当初、ビデオのテレビ鑑賞の予定でしたが、地区センターでプロジェクターを貸していただけるようになって、映画館とはいきませんが、大きな画面で楽しめるようになりました。まだ会は歩き始めたばかりですが、これからも息長く会を続け、映画と人生を語り合っていければと思っています。

亀山天皇と金沢

熊谷　　哲

「ＩＮＤＥＸ金沢」の仕事の一環で、色々な書物を調べている内に、金沢は亀山天皇と仲々の関りがあることを知りました。ご承知の方も多いかと思いますが、その関りを列記します。

亀山帝は第 90 代の天皇で、天皇として正嘉 3(1259)～文永 11(1274)、上皇として文永 11～弘安 11(1287)の期間、在位された。そのときの鎌倉の執権は、北条時頼の後の、長時・政村・時宗である。亀山帝は後醍醐天皇の祖父であるが、この頃は朝廷と幕府の関係は大変良好だった。

亀山帝は称名寺を勅願所とされておられ、種々ご配慮の跡が覗える。称名寺の宝物として、亀山帝に関りの深いものとしては、次の品々がある。

- 種子愛染明王図一幅(絹本着色、96.9×39.2cm、県重文)：亀山帝のご宸筆という。
- 厨子入金属製愛染明王坐像(銅造、像高 7.9cm、

重文)：亀山帝の御守本尊という。

- 金銅装宝篋印塔(重文)に収められている佛舎利：非常に古い舎利を、弘法大師が大和室生山に納めていた。亀山帝の勅により、称名寺に移された。寺では三重の塔(三宝の宝塔、弥勒堂、瑜祇堂、愛染堂、あかざ堂と云はれた。明治 16 年焼失)に祀っていた。
- 楊貴妃の珠簾一連(重文)：尾張熱田神宮の宝物であったが、亀山帝の勅により此処へ移された。西域産の物が中国を経て日本に伝来したらしい。三重の塔に収められていた。

現在、これら称名寺の宝物は、県立金沢文庫に保管されている。

亀山帝が金沢に来られたという言伝えがある。それにまつわる伝承を紹介する。

- 君が崎：昔、金沢は六浦から釜利谷まで入海だった。亀山帝は舟で君が崎に上陸して称名寺に行かれたといわれ、帝が上陸された岬ということで「君が崎」の名が付いた。
- 亀井：称名寺赤門の左の方にある金沢七井の一つ。亀山帝が来られた時、この井戸の水をご使用になったので「亀」が付く。
- 亀井橋：現在の県立金沢文庫の約 50m南にあった橋(今は暗渠)。亀井の水と称名寺の池の水が、入海(今の泥亀新田)に流れる川に架けられていた。
- 御所が谷：現在の県立金沢文庫から西南にかけての一帯の谷戸。いわれに二説がある。亀山帝が称名寺御幸の時、仮御所を作った跡という説。もう一説は、永享の乱(1438)の折、足利持氏が称名寺に逃れ、この辺りにあった自分の館(自ら御所と僭称していた)に入った事からその名が生まれたという。(私事だが、私の古い住所は「磯子区金沢寺前町字御所ヶ谷‥」だった。今は「金沢区金沢町」。)
- 蛍の名所：谷津小字行田の小川一帯は蛍の名所だったという。亀山帝が金沢ご滞在中蛍狩りに来られたという。行田は今の西柴２丁目と３丁目の境の辺りである。

亀山帝が金沢へ来られたというのは、「新編武蔵風土記稿」によれば、虚説であるという。中国の元が日本に使者を送り、圧力を掛けていた正に元寇の時期である。文永 8 年(1271)には亀山帝の勅使が伊勢神宮に行き、異国降伏を祈願するなど全国的に社寺への祈願が盛んに行われており、勅願所の称名寺へも勅使のご派遣があったと想像される。色々言伝えが残っている所から、何の根拠も無かったとは思えない。

能見堂地蔵堂縁起　戯考

葛城　　峻

元禄期まで武蔵南部から相模の地は下総関宿藩主久世大和守廣之が代官として治めたが、その名は円通寺の石灯籠（瀬戸神社に移設）と能見台の地蔵堂寄進で知られている。

ところで能見台の地蔵堂だが、広い支配地の中でなぜここが選ばれたのだろう。

寛政重修諸家譜を眺めているうちに妙な因縁に気がついた。殿中刃傷の豊嶋刑部明重は富岡で有名だが、なんと、彼に討たれた井上主計頭正就の娘が刃傷以前に廣之の長兄廣當に嫁しているのである。それだけでなく廣之は兄夫婦の三男廣次を自分の養子にしているのだ（旗本の廣次は久良岐郡岡村その他を知行地として拝領した）。身内とはいえ横車を押して刑部に刃を振るわせたあげく十二歳の嫡男まで切腹、お家断絶に追い込んだ十七歳のときの事件は久世一族にも大きなショックだった。しかも春日局べったりの井上に比べ武士の一義を貫いた豊嶋の評判は幕府内部でダンチなのである。この丘に立ち眼下の富岡村を眺めたときの廣之の感慨やいかに。

地蔵堂寄進は三十数年前悲運の最後を遂げた豊嶋一族の鎮魂であり荒ぶる魂を和らげ悪霊封じを念じたものではなかろうか。刑部が母の供養に建てた慶珊寺本尊が地蔵尊であることを思えば、増上寺から移築したのが地蔵堂であるのもゆえなしとしない。

「ふるさと創生一億円」で再建された関宿城はいま利根水運の博物館となっているが、戊辰動乱期に、藩主廣文が反薩長の先鋒として彰義隊とともに上野で抗戦したかどにより、新政府の手で貴重な記録類はすべて焚書されてしまった。如上の説も文書で確かめるすべなきまま、戯考とするのみである。

鎌倉俳句寺社めぐり（その４）

～分科会「寺社を巡る会」の定例行事に参加して～

北野　清市

第８回　テーマ「新田義貞の鎌倉攻め」

H16 年１月８日。快晴。10 時江ノ電極楽寺駅集合。極楽寺・極楽寺坂･成就院・虚空蔵堂・稲村ヶ崎(昼食)・十一人塚・東勝寺跡・宝戒寺の順に巡る。西高東低の典型的な冬型の天気で、風もなく雲ひとつない絶好の吟行日和であった。

《　北野　清市　詠　》

初乗の江ノ電着けり極楽寺

寒四郎刀差し来る切り通し(極楽寺坂)

寒晴れや百八段の成就院

松過ぎの虚空蔵堂へ参りけり

義貞の鎌倉攻めか冬の鳩（稲村ヶ崎　４句）

江ノ島の肩に富士置く冬の磯

一月の松が匂へり相模灘

磯の浪尖らす風や野水仙

春遠し十一人塚の鬨の声

高時の腹きりやぐら冬日射す（東勝寺跡　２句）

千人の自害の果や寒椿

篝火を囲み蝋梅愛でにけり（宝戒寺　２句）

水琴窟初春の音を伝えけり

《　先達(俳人)の当季雑詠　》

初写真腹切矢倉背景に　山口　青邨

高張に四日の灯あり宝戒寺　八木林之助

萩寺の切株ばかり寒日和　山口　青邨

浪音の由比ヶ浜より初電車　高浜　虚子

破魔矢触れ梅の蕾をまなかひに　吉屋　信子

恵方道相模はうしほ満つる国　田中　鬼骨

鎌倉の雪かゝる松納め　久保田　万太郎

喪の女鎌倉で降り小正月　沢木　欣一

第９回　テーマ「金沢街道Ⅱ　鎌倉幕府の変遷」

Ｈ１６年２月５日。快晴。10 時鎌倉駅西口集合。壽福寺･鶴岡八幡宮・（昼食）・白旗神社・鎌倉国宝館・頼朝の墓・幕府跡の順に巡る。立春を迎えたばかりの春色漲る快晴の吟行日和であった。

《　北野　清市　詠　》

春めきし寿福寺護る阿吽像(寿福寺　４句)

やぐらには虚子の墓あり寺椿

余寒なほ弟子ら囲みし虚子の墓

冬ざくら政子の墓に手向けゐし

八幡菩薩南無の御籤や梅二月（鶴岡八幡宮　３句）

受験子の絵馬に癖字の願ひかな

「静」の舞罷り出づるか春はじめ

池に鴨庇に旧りし源氏紋

鎌倉の名宝展へ寒苦鳥（鎌倉国宝館）

頼朝の墓へ登りし春帽子

発掘す瑠璃工房か四温光（幕府跡　２句）

春立てる幕府の跡や子らの声

《　先達(俳人)の当季雑詠　》

寿福寺の夕鶯のものさびし　星野　立子

実朝忌由井の浪音今も高し　高浜　虚子

右大臣の忌の鎌倉や梅寒き　青木　月斗

鎌倉に住み古るまゝに実朝忌　高浜　年尾

墓参して寿福禅寺の梅にあり　高浜　虚子

美しきしばしの霙ありがたし　星野　立子

春かけて公暁が銀杏芽吹きた　石塚　友二

鎌倉を驚かしたる余寒あり　高浜　虚子

鎌倉の余寒居据る土の牢　成田　元次

早春の鎌倉山の椿かな　高浜　虚子

鎌倉に来て赤椿虚子椿　深見　けん二

鎌倉の風強き日の椿かな　上野　泰

白梅の鎌倉のほとり雲険し　石橋　秀野

第 10 回　テーマ「大仏・長谷観音の周辺」

H16 年 3 月 4 日。快晴。10 時江ノ電長谷駅集合。海浜公園・御霊神社･長谷寺(昼食)・光則寺･高徳院(大仏)･甘縄神社の順に尋ねる。天気予報は曇りであったが、実際は春うららの吟行日和であった。

《　北野　清市　詠　》

江ノ電の窓にあふるる春の海

実朝の歌碑春光の浜に起つ(海浜公園２句)

由比ヶ浜浪のまにまに和布刈船

「面掛け」の御霊神社に紅・白梅

桃の日やひとり一願長谷参り(長谷寺５句)

観音へ山茱萸の黄捧げをり

外人も拍子打てる春の寺

水面にも咲きそむはくれん観世音

弁天窟一石一字春の闇

土の牢灯すすみれや光則寺(光則寺２句)

海棠の樹齢やいかに賢治の碑

大佛の伏し目がちなる春の山（高徳院２句）

大佛の胎内めぐり春の興

頼家の生まれし社や花馬酔木(甘縄神社)

《　先達(俳人)の当季雑詠　》

空見れば月とおん母ねはん像　吉屋　信子

「樗牛ここに住みき」と南天花綴り　宮脇　白夜

永き日のわれらが為の観世音　高浜　虚子

大仏の冬日は山に移りけり　星野　立子

普茶料理すぐ裏口の芽吹き山　日美　井雪

鎌倉の月まんまるし沈丁花　高野　素十

鎌倉の古き土より牡丹の芽　高浜　虚子

鎌倉の草庵春の嵐かな　高浜　虚子

雛飾りつゝふと命惜しきかな　星野　立子

鎌倉へ産屋囲へる春の月　清水　基吉

第 11 回　テーマ「観音巡礼街道の名残」

H16 年４月１日。晴れ時々曇り。10 時杉本観音バス停集合。杉本寺・田楽辻子・報国寺・巡礼古道･法性寺･岩殿寺の順に巡る。まさに春爛漫のこの上ない吟行日和であった。

《　北野　清市　詠　》

罪とがの消えよと祈る花の寺（杉本寺）

花匂ふ田楽辻子を人力車

樹間より虚子忌近づく報国寺

浦島草竿弓なりに行者径(巡礼古道２句)

宅間なる谷戸に掬ひし蛙の子

御目あく佛に甘茶そそぎけり(法性寺２句)

ストローの中するすると花の昼

御詠歌碑百ほど建つる花参道（岩殿寺　２句）

逗子もまた墓あるところ桜あり

《　先達(俳人)の当季雑詠　》

普門品ひねもす雨の桜かな　泉　鏡花

花見にと馬に鞍置く心あり　高浜　虚子

咲き満ちてこぼるる花もなかりけり　高浜　虚子

一花よりみなぎる力初桜　稲畑　汀子

チチポポと鼓打たうよ花月夜　松本　たかし

鎌倉は松の荒さに春暮るる　久米　正雄

仰ぎ見し帰雁のつばさゆるやかに　高浜　年尾

朝の海あをあをと初桜　高橋　悦男

鎌倉俳句寺社巡り（Ⅰ）　完

分科会からのお知らせ

2004年12月までの予定

	寺社を巡る会	古文書を読む会
9月	9月2日（木）　集合：10時、北鎌倉駅 テーマ：大船周辺の旧跡を訪ねる 行動：成福寺～厳島神社～多聞院	9月16日（木）金沢瀬戸橋内海殺生禁断事書　ほか 9月30日（木）　五人組掟書
10月	10月7日（木）集合:10時､江ノ電江ノ島駅 テーマ：七里ヶ浜の磯伝い 行動：小動神社～満福寺～七里ヶ浜	10月21日（木）　往来手形之事　ほか 10月28日（木）　五人組掟書
11月	11月4日（木）　集合：10時、大船駅 テーマ：玉縄城址を巡り遊行寺へ 行動：玉縄首塚～龍宝寺～遊行寺	11月18日（木）　誓状之事　ほか 11月25日（木）　五人組掟書
12月	12月2日（木）集合：10時､JR逗子駅表口 テーマ：逗子市内の旧跡を探る 行動：延命寺～金剛寺～長柄桜山遺跡	12月16日（木）　両親遺言状之事　ほか 12月24日（木）　五人組掟書
分科会代表の一言	最近仕込んだ｢**ボケ**ます小唄｣。 １．何にもしないでボンヤリとテレビばかり見ているとのん気なようでも年をとり、いつか知らずにボケますよ。 順に披露。次号をご期待。ビジター歓迎！！	6月から始められた新会員の方々も、一生懸命頑張っておられます。 皆様、御声援を宜しくお願いします。

	ふれあいの道歩こう会	懐かしの映画を観る会
9月	9月17日（金）弘法大師と桜のみち 雨天順延。８・9・10月の予備日10月29日（金）	9月13日（月）自転車泥棒〔伊〕 9月27日（月）駅馬車〔米〕
10月	10月15日（金）太田道灌・日向薬師のみち	10月4日（月）二十四の瞳〔松竹〕 10月25日（月）グレンミラー物語〔米〕
11月	11月19日（金）順礼峠のみち	11月8日（月）哀愁〔米〕 11月22日（月）麦秋〔松竹〕
12月	12月17日（金）丹沢山塊　東辺のみち	12月13日（月）七年目の浮気〔米〕 12月27日（月）現金に手を出すな〔仏〕
分科会代表の一言	いよいよ丹沢の山地へ挑戦。海岸から山岳地帯に変わるので心配の会員もおられますが、安全第一で。ビジター参加希望者は宮原（☎783-4539）小俣（☎782-8147）まで	会場：金沢地区センター会議室(原則) 時間：13：00～ ビジター歓迎〔無料〕 青春の血をたぎらせた映画を今新しい観点から観て、感慨ひとしお。老いるとは、また新しい発見と知りました。

編集後記　本号では､前号に引き続き2段組みにして読み易さの改善を試みました。新たな編集委員の指名も済み編集体制を一新し､体裁や内容の一層の改善や充実を図る予定です。次号乞う御期待。会員・分科会･学習会･運営委員会を太きパイプで結ぶ会報でありたい。ご意見を頂きたく宜しくお願いします。

発行日	平成１６年８月２１日
発　行	金沢区生涯学習“わ”の会
編集責任者	小　岩　克　介 〒236-0005 横浜市金沢区並木3-3-2-103 Tel/Fax　045-783-0474